

中部高等学術研究所 年報

令和 3 年度



目次

1. 中部高等学術研究所とは
 1. 1. 概要
 1. 2. 研究内容の変遷・過去の出版物
 1. 3. 研究所情報（所在地、組織図）
 1. 4. 所員（令和3年度）
2. 所員（専任）の研究教育活動
3. 令和3年度に開催された研究会・シンポジウム等
4. 国際ESDセンター
 4. 1. 国際ESDセンター主催・共催事業
 - （1）第12回中部大学ESD・SDGs研究・活動発表会
 - （2）第26回中部大学ESD・SDGsシンポジウム
 4. 2. 国際ESDセンター地域連携事業
 - （1）中部ESD拠点協議会主催事業
 - （2）愛知学長懇話会サステナビリティ・プロジェクトの実施支援
5. 国際GISセンター
 5. 1. 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点
 5. 2. アジアサマースクール オンライン 2021

1. 中部高等学術研究所とは

1. 1. 概要

中部高等学術研究所は、1996 年に大学直属の研究所として、また私立大学ではわが国初の大学共同利用研究所として設置された。以来「学問の再構築」を目的とした文系・理系の枠にとらわれない共同研究拠点として活動を行い、学内のみならず国内外の多くの学外研究者が研究活動に関与してきた。これまで、「アジアにおける伝統文化」、「人間安全保障」、「学問の再構築：はかる」、「高等教育を考える－アウトカムズを中心に」等をテーマとして共同研究が行われた。その成果は、ユネスコ大学連合共同研究賞の受賞（2003 年）、「＜はかる＞科学」（2007 年 中公新書）や「変容する現代の大学教育を考える」（2012 風媒社）の上梓に繋がった。

2007 年より新しいテーマとして、「持続可能な発展のための教育 (Education for Sustainable Development :ESD)」を取り上げ、この活動を中部大学の一つの核とすべく 2009 年に「国際 ESD センター」を研究所の附置センターとして開設した。更に 2011 年には、地理情報システム (Geographic Information System :GIS) の研究推進拠点として「国際 GIS センター」を附置センターとして開設した。このセンターは、2014 年に文部科学省 より共同利用・共同研究拠点として認定された。中部高等学術研究所は、「持続可能な発展」が 21 世紀の人間社会の基本的な価値観になるとの認識に立ち研究を展開している。

1. 2. 研究内容の変遷・過去の出版物

(1) 研究内容の変遷

中部高等学術研究所（以下「中高研」）は、1996年に、大学直属の研究所として設置された。研究所のその後を顧みると、大きく5つの時期に区分できる。

第1期は、加藤秀俊所長の時代（1996年4月～2001年3月）で、アジアに関する事項が主な研究テーマになっている。

第2期は、武者小路公秀所長（2001年4月～2003年3月）のもと人間の安全保障が中心課題に採用されている。

第3期は、飯吉厚夫総長が所長に就任した時期（2003年4月～2011年5月）からである。新しい研究テーマとして「学問の再構築」を取り上げ、その第一歩として文理融合的テーマ「はかる」が選択され、23回の研究会を経て、「はかる—はかりはかれる人と世界—（上下）」が出版された。また、同時に「<はかる>科学」が2007年に中公新書の1冊として上梓された。

この「はかる」の後継研究として、「高等教育を考える—アウトカムズを中心に—」と「春日井コモンズ研究会」（テーマとして「いのち」と「科学と私」が採択されている）が発足している。

第4期は、2007年より新しい活動として、「持続可能な発展のための教育(Education for Sustainable Development :ESD)」が取り上げられている。ESDの活動は、2002年のヨハネスブルグでの第2回地球サミットでわが国が提案し、それが採択されて、世界的に活動が展開されている事業である。中部大学は、「持続可能な発展」が、21世紀の人間社会の基本的な価値観になるとの認識に立ち、中高研で、それを基盤に、現在の学問体系を再構築しようとの意志をもって研究を展開してきた。

第5期は、稲崎一郎所長（2011年6月～2015年3月）のもと、中高研と密接な連携を保って活動してきた「国際ESDセンター」（センター長 稲崎一郎）を中高研の付置センターとし、2011年度から中高研の付置センターとして発足した「国際GISセンター」（センター長 福井弘道教授）と合わせて2つのセンターを包含する研究所となった。

これら2つのセンターの有機的な連携を通して、「持続可能性」を基盤にした学問の再構築と地理情報システム（GIS）を積極的に利用した新しい実学の推進拠点として中高研の研究活動は展開している。また、2011年9月にはアジア工科大学院との学術協力に関する提携を結び、国際的な展開も図っている。

第6期は、現在の福井弘道所長（2015年4月～）のもと、ESDとGISの二つのセンターの連携をさらに積極的に進めるべく、プロジェクトベースの共同研究もおこなわれるようになった。流域圏管理からSDGsの指標の可視化などをはじめ、デジタルアースのような情報・知識プラットフォームを構築して、地球的視野から地域のデザインを考え、環境や防災・減災など問題複合体に取り組む研究を深化させている。

（２）過去の出版物

１）単行本・新書

◎『RICE in asia —Lives of Seven Farmers—』

（2000 年出版 A PRELUDE Book under a Unitwin-Unesco Project）

◎『「コメとアジアのひとびと」—7 人の稲作農民の生活史—』（加藤秀俊 編）

（2003 年 3 月出版 ユネスコ（国連教育科学文化機関）UNITWIN（大学連合共同研究）
賞受賞）

◎『ラオスの楽器』（藤井知昭監修）

（2005 年出版 中部高等学術研究所）

◎『はかる—はかりはかれる人と世界』上下 2 巻（阪上孝、長島昭編）

（2004 年 6 月～2007 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会報告集）

◎『<はかる>科学 計・測・量・謀……はかるをめぐる 12 話』（阪上孝、後藤武編）中公新書、中央公論新社

（2007 年 10 月出版 中部大学中部高等学術研究所創設 10 周年記念）

◎『高等教育のアウトカムズを考える—中部高等学術研究所 高等教育アウトカムズ研究会から—』

（中部高等学術研究所編）

（2010 年 12 月出版、2005 年 6 月～2006 年 3 月、2007 年 5 月～2008 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会報告集）

◎『科学と“私”—科学技術社会における個人性の回復—』（長島昭編）

（2011 年 2 月発行、2008 年 3 月～2010 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会報告集）

◎『変容する現代の大学教育を考える—学問の再構築を目指して—』（中部高等学術研究所編）風媒社

（2012 年 3 月出版）

◎『持続可能な社会をめざして—「未来」をつくる ESD』（飯吉厚夫、福井弘道、稲崎一郎編）平凡社

（2014 年 9 月出版）

２）Studies Forum Series

◎01. 『21 世紀はアジアの世紀か？』

（1997 年 7 月 中部高等学術研究所研究会）

◎02. 『変貌するアジアの農村』

（1997 年 10 月 オープンフォーラム）

◎03. 『タイにおけるコミュニケーション・ギャップ』

（1998 年 2 月 中部高等学術研究所研究会）

- ◎04. 『アジア諸都市における伝統文化とその変容～ポピュラー・カルチャーの形成～』
(1998年2月 中部高等学術研究所共同研究会) 24,
- ◎05. 『アジア主義と普遍主義 — 文明間の衝突と対話』
(1999年7月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎06. 『共生のシステムを求めて～ 東南アジアを手がかりに ～』
(1999年11月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎07. 『諸民族の音文化（音楽）研究の課題と展望～ 新たな世紀を視座に入れつつ ～』
(2000年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎08. 『宗教と国家統合～ ミャンマー連邦シャン州クン地区の事例の意味するもの ～』
(2000年6月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎09. 『音楽（音文化）研究の課題と展望』
(2001年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎10. 第1回人間安全保障研究会
『「人間安全保障」の研究と実践』
第2回人間安全保障研究会
『「人間安全保障」の操作的定義をめざして』
(2001年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎11. 『イスラーム文化の諸相』
(2002年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎12. 第3回人間安全保障研究会
『「人間安全保障」の社会的・文化人類学的アプローチ』
(2002年4月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎13. 第4回人間安全保障研究会
『公衆衛生と「人間安全保障」』
(2002年5月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎14. 第5回人間安全保障研究会
『空とマンダラ』
(2002年7月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎15. 『人間と自然の共通の「安全保障」』
(2002年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎16. 第6回人間安全保障研究会
『宗教と「人間安全保障」』
(2002年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎17. 『照葉樹林文化論をめぐって』
(2002年10月 中部高等学術研究所研究会)
- ◎18. 第7回人間安全保障研究会

『科学技術と「人間安全保障」』

(2002 年 12 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎19. 『アジアにおける文化クラスター(Ⅰ)～ ラーマーヤナの地域変容 ～』

(2003 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎20. 第 8 回人間安全保障研究会

『人間安全保障教育』

(2003 年 2 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎21. 第 9 回人間安全保障研究会

『防災と「人間安全保障」』

(2003 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎22. 第 10 回人間安全保障研究会

『人間の安全保障委員会最終報告書について』

(2003 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎23. 『南アジア北部と日本にみる人生儀礼の比較研究』

(2003 年 7 月 中部高等学術研究所研究会)

◎24. 第 11 回人間安全保障研究会

『「人間安全保障」とリスク』

(2003 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎25. 『アジアにおける文化クラスター(Ⅱ)～ 現代都市文化の変容 ～』

(2004 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎26. 第 12 回人間安全保障研究会

『「人間安全保障」研究の課題と展望』

(2004 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎27. 第 1 回共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」)

『“はかる”における相対と絶対共同研究』

(2004 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎28. 第 2 回共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」)

『人間をはかる、社会をはかる(1)』

(2004 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎29. 第 3 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」

『科学技術史における感性と計量』

(2004 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎30. 第 4 回共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」

『世界をはかる“メタファー”：認知意味論の立場から』

(2004 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎31. 第 5 回共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」

- 『古代シュメールでどのように穀物が量られ、土地が測られたか』
(2004 年 11 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎32. 第 6 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『世界をコントロールする“メタファー”』
(2004 年 12 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎33. 第 7 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『江戸の珠算文化とその情報源共同研究』
(2005 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎34. 共同研究「アジアの文化クラスター(Ⅲ)」
『時代認識の変容 ― 英雄・カリスマ・アイドル像をめぐる ―』
(2005 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎35. 第 8 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『生物現象をはかる ― モデル化と数量化の展開 ―』
(2005 年 2 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎36. 第 9 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『学問の再構築について』
(2005 年 4 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎37. 第 10 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『美をはかる(?)』
(2005 年 5 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎38. 第 1 回 共同研究「高等教育アウトカムズ研究フォーラム」
『教育評価方法の変遷と現状 倫理教育のアウトカムズ評価の事例と方法について』
(平成 17 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎39. 第 11 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『空間をはかる』
(2005 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎40. 第 12 回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『数量経済史という方法』
(2005 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎41. 第 13 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『健康をはかる、病気をはかる』
(2005 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎42. 第 2 回 共同研究「高等教育アウトカムズ研究フォーラム」
『技術者倫理から科学技術倫理まで：現状と概念の整理―アウトカムズとは？ 研究
評価の 事例から―』
(2005 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎43.第14回 共同研究「はかる ―はかりはかられる人と世界」
『地表をはかる』
(2005年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎44.『アジアにおける文化クラスター(Ⅳ) ―叙事詩の系譜と変容―』
(2006年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎45.第15回 共同研究「はかる ―はかりはかられる人と世界」
『こころをはかる：複雑系としての脳』
(2006年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎46.第16回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『環境をはかる：技術者の視点』
(2006年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎47.第3回 共同研究「高等教育アウトカムズ研究フォーラム」
『エンジニアリングデザインと技術者倫理』
(2006年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎48.第17回 共同研究「はかる ― はかりはかられる人と世界」
『気と脈で国土をはかる』
(2006年4月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎49.第18回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『アフォーダンスという単位』
(2006年5月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎50.第19回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『キログラムの再定義をめぐる最近の動き』
(2006年6月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎51.第20回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『心を読み、はかり、つなぐ―アラビアからインドへ―』
(2006年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎52.共同研究「地域の持続可能な発展のための教育と人間安全保障」研究会
(2006年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎53.第21回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『罪の重さをはかる』
(2006年11月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎54.第22回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『文明／野蛮をはかる』
(2006年11月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎55.第23回 共同研究「はかる―はかりはかられる人と世界」
『「文化の豊かさ」がはかれるか』

(2007 年 1 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎56.第 1 回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『大学に先生は必要か』

(2007 年 5 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎57.第 2 回共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『大学の機能と高等教育のパラダイム』

(2007 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎58.第 3 回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『工学部の教育改革と教育におけるアウトカムズ』

(2007 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎59.共同研究「持続可能な発展のための教育（ESD）—第 1 回～第 3 回—」研究会
(2007 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎60.第 4 回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『教育のアウトカムズを向上させるためのささやかな試み』

(2007 年 10 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎61.第 5 回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『わが国の科学技術政策の課題』

(2007 年 12 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎62.第 6 回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『学部教育が抱える問題への対応』

(2008 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎63.ブレ研究会 共同研究「春日井コモンズ」研究会

『コモンズの再構築』

『いのち—植物・動物・人間、科学・技術・文化—』

『いまだに「私」はデータをまとめられるか？—<ポストモダン>にかんする 1 つの
思想史 的考察』

(2008 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎64.第 7 回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『日本の科学／技術はどこへ行くのか』

(2008 年 4 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎65.第 1 回 共同研究「春日井コモンズ」研究会

『科学と〈私〉— 個体の消滅と復活』

(2008 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎66.第 8 回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『『教養』教育は可能か？』

(2008 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)

- ◎67.第2回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『都市狩猟採集民の家—浅草・隅田川に建つ0円ハウス—』
(2008年6月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎68.第9回 共同研究「高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『中央教育審議会報告「学士課程教育の構築に向けて」を読んで—日米両国における大学ビジョンの比較を中心に—』
(2008年8月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎69.第3回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『「いのち」と「ヒト」の原点を考える』
(2008年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎70.第10回 共同研究 高等教育を考える—アウトカムズを中心に」研究会
『新しい医科学への道—高橋暁正の目指したもの—』
(2008年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎71.第4回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『中国思想における「いのち」』
(2009年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎72. 第5回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『“生きている”を見つめ“生きる”を考える』
(2009年9月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎73. 第6回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『数量化社会のほころびと再生—“私”の視点から』
(2009年8月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎74. 第7回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『科学と「私」—問題の系譜』
(2010年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎75. 第8回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『自己主張としての文学の役割』
(2010年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎76. 第9回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『メディア技術は、どのような「コモンズ（共）」を出現させることができるか』
(2010年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎77. 第10回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『個人識別に関わる情報処理技術』
(2010年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎78. 第11回 共同研究「春日井コモンズ」研究会
『生命に目的はあるのか』

(2010 年 6 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎79. 第 12 回 共同研究「春日井コモンズ」研究会

『美術はいま何をやろうとしているのか—感覚の彼方・物質の彼方・行為の彼方—』

(2010 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎80. 第 13 回 共同研究「春日井コモンズ」研究会

『歴史学の終焉 —制度的歴史学の崩壊によせて—』

(2010 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎81. 記念シンポジウム 春日井コモンズ

『科学技術と個人』

(2010 年 11 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎82. 第 1 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『持続可能な地域』

(2012 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎83. 第 2 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『将来世代に優しい社会・環境を—エネルギー・環境問題を中心に—』

(2012 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎85. 第 4 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『東アジアの目で見える「グレーター・ナゴヤ」の戦略』

(2013 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎89. 第 8 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『都市の再生と河川—持続可能な発展をめざして—』

(2013 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎90. 第 9 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『地方政治は持続社会に貢献できるか？—犬山から飛騨へ、私の提言—』

(2014 年 9 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎91. 第 10 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『近代と未来のはざままで - 未来観の変遷と 21 世紀の課題』

(2014 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎92. 第 11 回 共同研究「サステナビリティ研究会」

『エコロジー、インダストリー、アートの観点から生物多様性に配慮したグランド
(地)・デザイン〜生物多様保全という名のトポフォリア (場所愛)』

(2014 年 3 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎93. 第 1 回 共同研究「寿命研究会」

『無限か再生か—寿命をめぐる』

(2014 年 7 月 中部高等学術研究所共同研究会)

◎94. 第 2 回 共同研究「寿命研究会」

- 『無限か再生かー17ー18世紀における地球と人間の運命』
(2014年10月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎95. 第3回 共同研究「寿命研究会」
『無限か再生かー老年期の進化と人間社会の未来』
(2014年12月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎96. 第4回 共同研究「寿命研究会」
『無限か再生かー幸せと寿命ー現代幸福学入門』
(2015年2月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎97. 第5回 共同研究「寿命研究会」
『無限か再生かー時間次元の認知と寿命』
(2015年5月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎98. 第5回 共同研究「寿命研究会」
『無限か再生かー時間次元の認知と寿命』
(2015年7月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎99. 第1回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『東海地方における陸水の窒素循環・汚染の現状と課題』
(2016年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎100. 第2回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『流域再生を目指した自然共生型環境管理と水の質的改善』
(2016年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎101. 第3回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『都市・土地利用のデザインと水環境』
(2017年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎102. 第4回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『藤前干潟保全の歴史と現況を学ぶ』
(2017年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎103. 第5回 共同研究「サステナブル流域水研究会」
『総合型地圏水環境シュミレーション技術が描き出す流域水循環の動態』
(2017年1月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎104. 第1回 共同研究「人文学の再構築」
『ルネサンス期科学の歴史的意味』
(2017年3月 中部高等学術研究所共同研究会)
- ◎105. 中部大学共同講義
『リーダーとしてのゴルバチョフ・今日のロシアとヨーロッパの理解の根底』
(2017年4月 中部高等学術研究所共同研究会)

1. 3. 研究所情報（所在地、組織体系、規程）

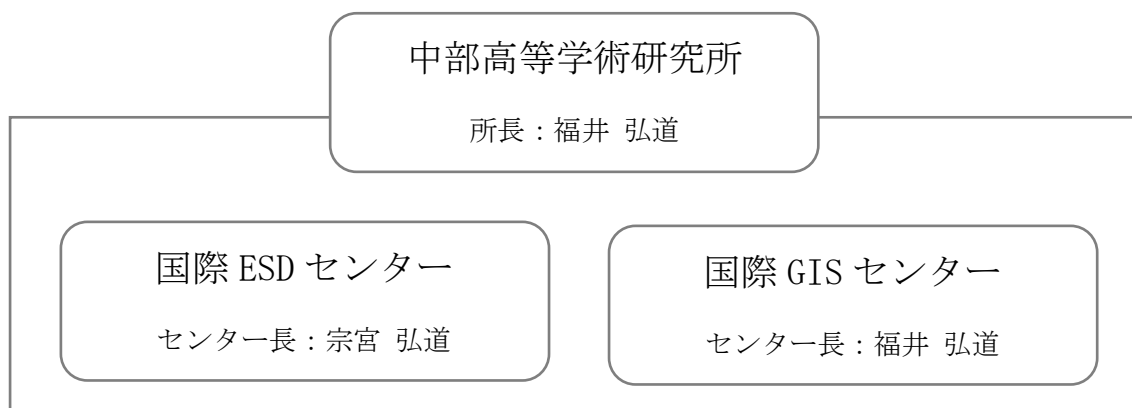
（1）所在地等

所在地：〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200

設立年月日：1996 年 4 月 1 日

所長：福井 弘道（中部大学中部高等学術研究所 教授/国際 GIS センター長）

（2）組織体系



（3）HP

<http://www.isc.chubu.ac.jp/chukoken/>

1. 4. 所員（令和3年度）

◎ 所員教員

福井 弘道	中部高等学術研究所 所長/国際 GIS センター長
安藤 隆穂	中部高等学術研究所 教授
河村 公隆	中部高等学術研究所 教授
竹島 喜芳	中部高等学術研究所 准教授
古澤 礼太	中部高等学術研究所 准教授
杉田 暁	中部高等学術研究所 准教授
安本 晋也	中部高等学術研究所 講師
上野 吉一	中部高等学術研究所 特任講師
川村 真也	中部高等学術研究所 研究員
原 理史	中部高等学術研究所 非常勤研究員
杉山 範子	中部高等学術研究所 非常勤研究員

◎ 所員教員（兼任）

山羽 基 教授	（工学部建築学科、国際ESD・SDGsセンター長）
牛田一成 教授	（応用生物学部環境生物科学科、応用生物学部長）
玉田敦子 教授	（人文学部）
松田一希 准教授	（創発学術院）
平川 翼 講師	（A I 数理データサイエンスセンター）

◎ 客員教授

石 弘之	（元東京大学大学院教授）
石田 芳弘	（元犬山市長、元衆議院議員）
岩本 渉	（国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長）
大西 隆	（前豊橋技術科学大学学長）
嘉田 由紀子	（参議院議員、元日本環境社会学会会長）
小檜山 賢二	（慶應義塾大学名誉教授）
崎川 茂郎	（株式会社ソフトブリッジグローバルスタディーズ顧問）
嶋田 義仁	（元名古屋大学文学部教授）
竹内 恒夫	（名古屋大学大学院環境学研究科特任教授）
中村 健史	（元高山市教育長）
長島 昭	（元中部高等学術研究所 特任教授）
野中 ともよ	（NPO ガイア・イニシアティブ代表、ローマクラブ会員）
増田 耕一	（立正大学地球環境科学部環境システム学科教授）

三島 憲一	(大阪大学名誉教授)
水田 洋	(名古屋大学名誉教授／学士院会員)
山内 睦文	(中部大学名誉教授)
高須 幸雄	(特定非営利活動法人「人間の安全保障」フォーラム 理事長)

2. 所員（専任）の研究教育活動

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
安藤 隆穂	A 1	共	東亜思想交流史中の脈絡性転換	ISBN:978-986-5452-71-1, 台湾大学人文 社会高等研究院東亜儒学研究中心, (第 II部「導言」, 135-140ページ, 第七章 「日本思想中の西欧受容近代脈絡的成立」, 141-176ページ, 「後記」 427-434ページ	2022年 2 月
上野 吉一	D	単	講師『野良犬・野良猫は「絶滅」すべきか』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2021年 4 月
	D	単	講師『お金がなければ飼う権利なし』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2021年 5 月
	D	単	講師『断耳・断尾は必要か』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2021年 6 月
	D	単	講師『生命の価値・遺伝子の価値』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2021年 7 月
	D	単	講師『多頭飼育崩壊は誰の責任』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2021年 8 月
	D	単	講師『ショーに用いられる動物たち』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2021年 9 月
	D	単	講師『人のために働く動物たち』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2021年10月
	D	単	講師『野生動物の共生と保全』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2021年11月
	D	単	講師『動物福祉と延命 』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2021年12月
	D	単	講師『健全なブリーディングとは何か』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2022年 1 月
	D	単	講師『5つの自由から5つの領域へ』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2022年 2 月
	D	単	講師『アニマルウェルフェア・ノービスコース』	アニマルウェア国際協会 https://www.awio.org/novice	2022年 3 月
	D	単	講師『野生動物を飼うこと』	人と動物の共生大学 http://human-animal.jp/kyouseidai/ lecture/animal-happiness	2022年 3 月
河村 公隆	B 1	共	The Malina oceanographic expedition: How do changes in ice cover, permafrost and UV radiation impact biodiversity and biogeochemical fluxes in the Arctic Ocean?	Earth System Science Data, 13, 1561- 1592, 2021. https://doi.org/10.5194/ essd-13-1561-2021	2021年 4 月
	B 1	共	Dry-deposition of inorganic and organic nitrogen aerosols to the Arabian Sea: Sources, transport and biogeochemical significance in surface waters	Marine Chemistry, 231, 103938, 2021. doi.org/10.1016/j.marchem.2021. 103938	2021年 4 月

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
河村 公隆	B 1	共	Seasonal characteristics of biogenic secondary organic aerosols over Chichijima Island in the western North Pacific: Impact of biomass burning activity in East Asia	J. Geophys. Res.-Atmospheres, 126, e2020JD032987, 2021. https://doi.org/10.1029/2020JD032987	2021年 6 月
	B 1	共	Biomass burning is an important source of organic aerosols in Interior Alaska: An influence on the Arctic atmosphere	J. Geophys. Res.-Atmospheres, 126, e2021JD034586. https://doi.org/10.1029/2021JD034586 , 2021	2021年 6 月
	B 1	共	Increase of nitrooxy-organosulfates in firework-related urban aerosols during Chinese New Year Eve	Atmos. Chem. Phys., 21, 11453–11465, 2021. doi.org/10.5194/acp-21-11453-2021	2021年 7 月
	B 1	共	Photochemical processing of inorganic and organic species in the Canadian high Arctic aerosols: Impact of ammonium cation, transition metals, and dicarboxylic acids before and after polar sunrise at Alert	ACS Earth and Space Chem., 5, 2865–2877, published August 17, 2021. doi.org/10.1021/acsearthspacechem.1c00242	2021年 8 月
	B 1	共	Measurement report: Vertical distribution of biogenic and anthropogenic secondary organic aerosols in the urban boundary layer over Beijing during late summer	Atmos. Chem. Phys., 21, 12949–12963, 2021. Published September 1, 2021. doi.org/10.5194/acp-21-12949-2021	2021年 9 月
	B 1	共	Characterization of dicarboxylic acids, oxoacids, and α -dicarbonyls in PM _{2.5} within the urban boundary layer in southern China: Sources and formation pathways	Environ. Pollution, 285, 117185, 2021. doi.org/10.1016/j.envpol.2021.117185	2021年 9 月
	B 1	共	Seasonal and temporal variations of ambient aerosols in a deciduous broadleaf forest from northern Japan: Contributions of biomass burning and biological particles	Chemosphere 279, 130540, 2021. https://doi.org/10.1016/j.chemosphere.2021.130540	2021年11月
	B 1	共	Decadal variations in hydroxy fatty acids over Chichijima Island in the North Pacific: Long-term seasonal variability in plant and microbial markers	Journal of Geophysical Research - Atmospheres, 126, e2020JD033347, 2021. https://doi.org/10.1029/2020JD033347	2021年11月
	B 1	共	Terrestrial lipid biomarkers in marine aerosols over the North Pacific Ocean during 1990–1993 and 2006–2009	Sci. of The Total Environment, 797 (2021) 149115. doi.org/10.1016/j.scitotenv.2021.149115	2021年11月
	B 1	共	Molecular characterization and spatial distribution of dicarboxylic acids and related compounds in fresh snow in China	Environ. Pollution, 291, 11814, 2021. https://doi.org/10.1016/j.envpol.2021.118114	2021年12月
	B 1	共	Regional heterogeneities in the emission of airborne primary sugar compounds and biogenic secondary organic aerosols in the East Asian outflow: Evidence for coal combustion as a source of levoglucosan	Atmos. Chem. Phys., 22, 1373–1393, 2022, doi.org/10.5194/acp-22-1373-2022	2022年 1 月
	B 1	共	Seasonal changes in stable carbon isotopic composition in bulk aerosol and gas phases at a suburban site in Prague	Sci. of Total Environ., 803, 149767 (2022). https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2021.149767	2022年 1 月
	B 1	共	Latitudinal difference in the molecular distributions of lipid compounds in the forest atmosphere in China	Environmental Pollution 294, 118578 (2022), doi.org/10.1016/j.envpol.2021.118578	2022年 2 月

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
河村 公隆	B 1	共	Relationship of 137Cs with fungal spore tracers in the ambient aerosols from Fukushima after the 2011 Nuclear Accident, East Japan	Atmosphere, 2022, 23, 413. doi.org/10.3390/atmos13030413, Published 3 March 2022.	2022年 3 月
	B 1	共	Unraveling the sources of atmospheric organic aerosols over the Arabian Sea: insights from the stable carbon and nitrogen isotopic composition	Science of the Total Environment, https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2022.154260 , Available online 4 March 2022, 154260	2022年 3 月
	C 1	共	COALA-2020におけるオーストラリア森林火災時の大気エアロゾルの化学分析	第26回大気化学討論会, 2021. 11. 9-11, On-line.	2021年11月
	C 1	共	福江島と名古屋の大気エアロゾルの化学組成と活性酸素産生能力	第26回大気化学討論会, 2021. 11. 9-11, On-line.	2021年11月
	C 1	共	Atmospheric organic aerosol from terrestrial ecosystems: a field study in Australia and a plan to develop a field station in Hokkaido	iLEAPS-Japan 研究集会 2021: 大気-陸面プロセスの研究の進展: 観測とモデルによる統合的理解	2021年12月
	D	単	Editorial Board Member	Aerosol Science and Engineering	2021年 4 月
	D	単	Editorial Board	Atmosphere (MDPI Publishing, Basel, Switzerland)	2021年 4 月
	D	単	Co-Editor	Atmospheric Chemistry and Physics, European Geosciences Union	2021年 4 月
	D	単	Editorial Board Member	Atmospheric Environment	2021年 4 月
	D	単	Editorial Advisory Board member	Atmospheric Pollution Research (Turkish National Committee for Air Pollution Research and Control (TUNCAP))	2021年 4 月
	D	単	Treibs Award committee member	Geochemical Society	2021年 4 月
	D	単	Academic Advisory Committee	Institute of Surface-Earch Sytem Science (ISESS), Tianjin Universiy, China	2021年 4 月
	D	単	Editorial Board Member	PLOS ONE	2021年 4 月
	D	単	Editorial Board Member	Scientific Reports	2021年 4 月
	D	単	准教授昇進人事委員	カタール大学	2021年 4 月
	D	単	国際学術誌論文審査	J. Geophys. Res. -Atmospheres, Atmospheric Environment など約20件	2021年 4 月
	D	単	教授昇進人事審査委員	北京大学環境科学技術研究所	2021年 4 月
	D	単	プロポーザル審査委員	Swiss National Science Foundation, European Research Council, その他2件	2021年10月
	D	単	専門委員	日本学術振興会, 科研費審査委員（基盤研究S）	2021年11月
杉田 暁	B 2	共	災害派遣医療チーム及び視覚障害者用位置把握の基礎研究 -2アンテナ式GPSとQZSS・CLARCS実験結果-	測位航法学会 2021年度全国大会研究発表会抄録, 1pp. (2021)	2021年 6 月
	B 2	共	ドローンで収集した熱赤外画像と可視画像を活用した広域を対象とした空き家分布推定手法の開発	地理情報システム学会 第30回学術研究発表大会 講演論文集, 4pp. (2021)	2021年10月
	B 2	共	熱海市伊豆山の土砂災害現場で実施した空域災害調査と情報支援	CSIS DAYS 2021 研究アブストラクト集, A03, 1pp. (2021)	2021年11月
	B 2	共	災害対策DX「テラ・クラウド（災害対策情報支援プラットフォーム）」の社会実装	CSIS DAYS 2021 研究アブストラクト集, A12, 1pp. (2021)	2021年11月
	B 2	共	ドローンにより収集した熱赤外画像と可視画像を用いた広域における空き家分布推定手法の開発	CSIS DAYS 2021 研究アブストラクト集, B13, 1pp. (2021)	2021年11月

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
杉田 暁	B 2	共	UAVによる直接風況ウエイク測定のための時間応答特性評価	第43回風力エネルギー利用シンポジウム講演論文集, 4pp. (2021)	2021年11月
	B 2	共	ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラムのESD活用研究	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.113-118. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	感染症パンデミックの時空間ダイナミクス解析	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.139-143. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	ドローンを用いた大気流速場の局所計測	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.147-149. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	市民対話からの環境ガバナンスへ：福島で探る	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.41-48. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	画像認識技術を用いた蝶斑紋地域変異の定量的考察	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.49-53. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	深層学習・ビッグデータを用いた人獣共通感染症パンデミックの要因解明および時空間分布予測	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.57-60. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	ドローンにより収集した熱赤外画像と可視画像を用いた広域を対象とした空き家分布推定手法の開発	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.61-73. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	GISによる環境課題調査論文の越境的探索手法の研究（国際的な水資源問題情報調査手法の試行的開発）	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.75-80. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	デジタルアースを利用した避難情報伝達支援システム	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.85-91. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	複合的な自然環境便益の時空間評価に関する基礎的研究	IDEAS Joint Usage/Joint Research Report 2021, pp.99-103. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	春日井市勝川・南部地区の企業を対象としたタイムライン水防災に関わる活動報告	土木学会中部支部 令和3年度研究発表会 講演概要集, 2pp. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	AIによる画像認識技術を用いたチョウ斑紋の地理的変異に関する定量的考察（予報）	日本鱗翅学会 関東支部 2022「春のつどい」講演要旨, 1pp. (2022)	2022年 3 月
	B 2	共	準天頂衛星のセンチメートル級補強サービスを用いた歩行者移動経路の高精度測位に関する実証実験	信学技報, Vol.121, No.418, WIT2021-55, pp.71-76, (2022)	2022年 3 月
	C 1	共	災害派遣医療チーム及び視覚障害者用位置把握の基礎研究 -2アンテナ式GPSとQZSS・CLARCS実験結果-	測位航法学会 2021年度全国大会研究発表会, 2, 2021年6月, オンライン	2021年 6 月
	C 1	共	Spatial Analysis on Early Dilmun Burial Mounds in Bahrain using High-resolution Terrain Models	54th Seminar for Arabian Studies, International Association for the Study of Arabia, July 2021, Online	2021年 7 月
	C 1	共	A Method of Integrating Postprocessing RTK-GNSS to Consumer UAVs for Accurate Aerial Photo Mapping for Everyone	The 12th International Symposium on Digital Earth, July 2021, Online and On-site: Salzburg, AUSTRIA	2021年 7 月
	C 1	共	Use Cases of Digital Earth in Various Space-times for SDGs and Sustainable Earth	The 12th International Symposium on Digital Earth, July 2021, Online and On-site: Salzburg, AUSTRIA	2021年 7 月
	C 1	共	ドローンで収集した熱赤外画像と可視画像を活用した広域を対象とした空き家分布推定手法の開発	地理情報システム学会 第30回学術研究発表大会, Poster 2, 2021年10月, オンライン	2021年10月
	C 1	共	熱海市伊豆山の土砂災害現場で実施した空域災害調査と情報支援	CSIS DAYS 2021, A03, 2021年11月, オンライン	2021年11月
	C 1	共	災害対策DX「テラ・クラウド（災害対策情報支援プラットフォーム）」の社会実装	CSIS DAYS 2021, A12, 2021年11月, オンライン	2021年11月
	C 1	共	ドローンにより収集した熱赤外画像と可視画像を用いた広域における空き家分布推定手法の開発	CSIS DAYS 2021, B13, 2021年11月, オンライン	2021年11月

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
杉田 暁	C 1	共	Deep learning for forecasting the COVID-19 cases	The 62nd Annual Meeting for the Japanese Society of Tropical Medicine -Global Health Issues during/after COVID-19-, Nov. 2021, Online	2021年11月
	C 1	共	UAVによる直接風況ウェイク測定のための時間応答特性評価	第43回風力エネルギー利用シンポジウム, 2021年11月, オンライン	2021年11月
	C 1	単	2022年ドローン航空法改正の要点	第9回低空空撮技術活用研究会, 1, 2022年2月, 中部大学	2022年 2 月
	C 1	共	アジアの活断層図のデジタルアースへの投入と利用サービスの向上	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	感染症パンデミックの時空間ダイナミクス解析	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	気候変動適応の調査に資する橋梁の情報集積及び探索技術の研究 洪水に弱い橋のハザードマップを作る全国ワークショップ 橋梁流失リスクのオープンデータから始める気候変動適応	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	深層学習を用いた都市活動空間分布の推定手法	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	深層学習による画像認識技術を用いたチョウ斑紋の地理的変異に関する定量的考察	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	第9回低空空撮技術活用研究会 デジタルアース研究会ドローン分科会	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	デジタルアースを利用した避難情報伝達支援システム-2アンテナ式GPS測位とデジタルアースへの統合-	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	ドローンにより収集した熱赤外画像と可視画像から人工知能（AI）により迅速に空き家分布推定を行う手法の開発	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	ドローンを用いた大気流速場の局所計測	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	複合的な自然環境便益の時空間評価に関する基礎的研究	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラムのESD活用研究	「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2021年度成果報告会, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	準天頂衛星のセンチメートル級補強サービスを用いた歩行者移動経路の高精度測位に関する実証実験	電子情報通信学会 福祉情報工学研究会 (WIT), (22) WIT, WIT2021-55, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	AIによる画像認識技術を用いたチョウ斑紋の地理的変異に関する定量的考察（予報）	日本鱗翅学会 関東支部 2022「春のつどい」, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	春日井市勝川・南部地区の企業を対象としたタイムライン水防災に関わる活動報告	土木学会中部支部 令和3年度研究発表会, II-10, 2022年3月, オンライン	2022年 3 月
	C 2	共	2020年度 中部大学 国際GISセンター「問題複合体を対象とする共同利用・共同研究拠点」成果報告会	GIS-理論と応用 Vol. 29 No. 1 pp. 39-43. (2021)	2021年 6 月

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
杉田 暁	C 2	共	2020年度 中部大学 国際GISセンター「問題複合体を対象とする共同利用・共同研究拠点」成果報告会	GIS NEXT 第76号 pp.66（2021）	2021年 7 月
	C 2	共	遭難救助活動に役立つ ドローン技術	令和3年度焼岳火山防災避難訓練，2021 年11月，高山市	2021年11月
	C 2	単	2022年ドローン航空法改正の要点と，超小型 （100グラム未満）無人機の可能性	北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議 会「理事会」，2021年12月，高山市	2021年12月
	D		共同利用委員会委員	中部大学国際GISセンター「問題複合体 を対象とするデジタルアース共同利用・ 共同研究拠点」	
竹島 喜芳	D		中部支部 事務局	地理情報システム学会	
	B 2	共	レーザ測量の反射強度情報を用いた建物礎石 検出法の検討 ―比叡山三塔山坊遺構の把握 に向けて―	中部大学工学部紀要，Vol.57，pp.31-36	2022年 3 月
	C 2	単	LIDARの活用について ―植生解析・地表面 解析の事例から―	第9回低空空撮技術活用研究会・中部大 学	2022年 2 月
	C 2	単	志摩市未利用森林資源報告書	美食地政学から見た地域発生未利用資源 量の最小化とグリーンジョブマーケット の醸成（東北大学）	2022年 2 月
	C 2	単	空間スケールに応じた森林計測技術の費用対 効果 ―UAVの社会実装に向けて	2021年度森林計画学会春季シンポジウム	2022年 3 月
	C 2	共	太陽光発電施設の立地特性と紛争発生要因に 関する研究	2021年度問題複合体を対象とするデジタ ルアース共同利用・共同研究拠点成果報 告集	2022年 3 月
	D	単	森林境界明確化という問題の構造と解題の仕 方	みえ森林・林業アカデミー・みえ森林・ 林業アカデミー	2021年 7 月
	D	単	GISの基礎知識	岩手県農林水産部森林整備課・岩田県林 業試験場	2021年 8 月
	D	単	スマート林業を正面から考える	みえ森林・林業アカデミー・みえ森林・ 林業アカデミー	2021年 8 月
	D	単	森林計測技術論	愛媛大学リカレントコース・愛媛大学農 学部	2021年 9 月
	D	単	精密森林管理論	愛媛大学リカレントコース・愛媛大学農 学部	2021年11月
	D	単	境界確定	林業技士「森林評価」スクーリング・主 婦会館プラザエフ	2021年11月
	D	単	GSI操作応用	兵庫県市町村職員養成講座・兵庫森林大 学校	2021年12月
	D	単	森林測量	林業技士「森林経営」スクーリング・主 婦会館プラザエフ	2021年12月
	D	単	郡上森づくり推進会議 副座長	郡上市役所	2020年 3 月 ～
	D	単	森林計画学会地区代表理事	森林計画学会	2020年 3 月 ～
	D	単	森林情報高度化研修	（公財）兵庫県営林緑化労働基金・兵庫 森林大学校	2021年 10月・12月
	D	単	森林情報論実習	兵庫県立森林大学校・兵庫県立森林大学 校	2021年 4 月 ～12月
	D	単	オフセットクレジット評価検証プロジェクト 研究会委員	岐阜県林政部	2021年 9 月 ～
福井 弘道	A 2	共	朴恵淑，矢野竹男（編），持続可能な三重創 生とSDGs経営	ISBN:9784833153928，風媒社，第3章 流 域圏SDGs評価モデル～三重県の流域圏， pp. 71-91	2021年11月

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
福井 弘道	A 2	共	飯吉厚夫, 野中ともよ, 林良嗣編, ポストコ ロナ時代をどう拓くのか?	ISBN:9784750353722, 明石書店, 「デジ タルアースが編む宇宙線地球号の未来」 の章, pp. 159-178	2022年 3 月
	B 1	共	Digital Earth: A platform for the SDGs and green transformation at the global and local level, employing essential SDGs variables	Big Earth Data, 5(4), 476-496 (2021) doi: 10.1080/20964471.2021.1948677	2021年 8 月
	B 1	共	身近な社会的取組とSDGsの関連性理解のため のESD学習ツールの開発	環境教育, 31 (1), 64-73(2021) doi:10.5647/jsoee.31.1_64	2021年 8 月
	B 1	共	Forest-related SDG issues monitoring for data-scare regions employing machine learning and remote sensing - a case study for Ena city, Japan	IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium (IGARSS 2022), submitted (accepted on 12th, May)	2022年 1 月
	B 2	単	デジタルアース: SDGsとグリーン変革のため のプラットフォーム	環境アセスメント学会誌 20(1), 19-22 (2022)	2022年 3 月
	C 1	共	災害派遣医療チーム及び視覚障害者用位置把 握の基礎研究	測位航法学会, 2021年度全国大会研究発 表会	2021年 6 月
	C 1	単	Digital Earth: A platform for the SDGs based on Essential SDGs Variables	keynote and co-chair, Joint Forum on the contribution of Digital Earth to SDGs between ISDE and ISPRS at the 12th ISDE (International Symposium on Digital Earth)	2021年 7 月
	C 1	単	デジタルアース: SDGsとグリーン変革のため のプラットフォーム	環境アセスメント学会2021年度第20回大 会公開シンポジウム「ビッグデータと環 境アセスメント」(オンライン)	2021年 9 月
	C 1	単	Digital Earth: A platform for Smart Cities-Use case on Building Disaster- Resilient Society	Theory and Technology of Smart Cities Construction, 2021 International Symposium of Resilient City & The 21st Annual General Meeting of UK-CARE, The World Youth Scientist Summit (WYSS)	2021年11月
	C 1	共	AIによる画像認識技術を用いたチョウ斑紋の 地理的変異に関する定量的考察 (予報)	日本鱗翅学会関東支部2022「春のつどい」 オンライン	2022年 3 月
	C 1	共	準天頂衛星のセンチメートル級補強サービス を用いた歩行者移動経路の高精度測位に関する 実証実験	電子情報通信学会第116回「福祉情報工 学研究会」2022年3月	2022年 3 月
	C 1	共	アジアの活断層図のデジタルアースへの投入 と利用サービスの向上	問題複合体を対象とするデジタルアース 共同利用・共同研究拠点2021年度成果報 告	2022年 3 月
	C 1	共	深層学習による画像認識技術を用いたチョウ 斑紋地理的変異に関する定量的考察	問題複合体を対象とするデジタルアース 共同利用・共同研究拠点2021年度成果報 告	2022年 3 月
	C 1	共	ドローン固定翼機をもちいた有明海の絶滅危 惧種スナメリと人為的活動の動的競合の可視 化	問題複合体を対象とするデジタルアース 共同利用・共同研究拠点2021年度成果報 告	2022年 3 月
	C 1	共	マインドクライメート研究ー必須MC観測変数 (Essential Variables of Mind Climate) の 抽出の検討	問題複合体を対象とするデジタルアース 共同利用・共同研究拠点2021年度成果報 告	2022年 3 月
	C 1	共	ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラ ムのESD活用研究 (2年目)	問題複合体を対象とするデジタルアース 共同利用・共同研究拠点2021年度成果報 告	2022年 3 月
	C 1	共	市民対話からの環境ガバナンスへ: 福島と愛 知をつなぐ	問題複合体を対象とするデジタルアース 共同利用・共同研究拠点2021年度成果報 告	2022年 3 月

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
福井 弘道	C 1	共	複合的な自然環境便益の時空間評価に関する 基礎的研究	問題複合体を対象とするデジタルアース 共同利用・共同研究拠点2021年度成果報 告	2022年 3 月
	C 1	共	流域圏SDGs評価モデルの構築に関する研究 -伊勢・三河湾集水域の流域圏を事例として-	問題複合体を対象とするデジタルアース 共同利用・共同研究拠点2021年度成果報 告	2022年 3 月
	C 1	単	デジタルアースで考える気候変動と防災・減 災	令和3年度土木学会中部支部研究発表会	2022年 3 月
	C 2	単	Digital Earth: A platform for the SDGs based on EVs	GEO Virtual Symposium 2021, Session on Generalizing the concept of the Essential Variables	2021年 6 月
	C 2	単	Research on Digital Earth: Towards resilient and sustainable society	Asia Summer School Online 2021	2021年 8 月
	C 2	単	3. 災害別予測・解析技術開発	SIP II プログラム会議評価会	2021年10月
	C 2	単	「DE（デジタルアース）でGX（グリーン・ト ランスフォーメーション）を」	中部大学と東海大学との連携協定締結キ ックオフセミナー 「SDGsと地球市民社会の実現」	2021年12月
	C 2	単	気候変動適応中部広域協議会報告	気候変動適応全国大会，オンライン	2022年 2 月
	C 2	単	都市地域炭素マッピングへの期待	IGES都市炭素マッピング研究会	2022年 3 月
	D		客員研究員	（公財）中部圏社会経済研究所	
	D		会長	ESRI ジャパンユーザー会	
	D		理事（Councilor）	ISDE（International Society for Digital Earth）	
	D		委員	JAXA 大規模災害衛星画像解析支援チー ム JAXA 水災害への利用検討WG	
	D		委員	あいち生物多様性戦略推進委員会，愛知 県	
	D		理事長 センター長	一般社団法人 環境創造研究センター 愛知県地球温暖化防止活動推進センター	
	D		委員長	恵那市地球温暖化対策実行計画策定委員 会	
	D		委員長代理	尾張北部環境組合構成入札監視委員会	
	D		理事	環境共生学会	
	D		アドバイザー委員	環境総合研究推進費 1－1905「気候変動 の暑熱と高齢化社会の脆弱性に対する健 康と環境の好循環の政策」研究	
	D		アドバイザー委員	環境総合研究推進費2－2103「2050年実 質ゼロカーボン/地域自立エネルギーシ ステム・ロードマップ」研究	
	D		チーフGISオフィサー	公益財団法人 岐阜県建設研究センター	
	D		理事	公益財団法人 中部電気利用基礎研究振 興財団	
	D		拠点代表 共同利用委員会委員長	中部大学国際GISセンター「問題複合体 を対象とするデジタルアース共同利用・ 共同研究拠点」	
	D		中部支部 支部長	地理情報システム学会	
	D		会長	東海市環境審議会	
	D		理事	人間安全保障学会	
	D		会長	四日市市環境保全審議会	
	D		座長	気候変動適応中部広域協議会，環境省	

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
古澤 礼太	A 2	共	朴恵淑, 矢野竹男（編著）『持続可能な三重 創生とSDGs経営』	ISBN:9784833153928, 風媒社, 「第3章 流域圏SDGs評価モデル～三重県の流域圏」, 71頁～91頁	2021年11月
	B 2	共	流域圏SDGs評価モデルの構築に関する研究－ 三重県の流域圏を事例として－	『問題複合体を対象とするデジタルア－ ス共同利用・共同研究拠点 特定課題研 究2020年度報告書』, 2021年5月, 119- 126頁	2021年 5 月
	B 2	共	ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラ ムのESD活用研究	『問題複合体を対象とするデジタルア－ ス共同利用・共同研究拠点 特定課題研 究2020年度報告書』, 113-118頁	2021年 5 月
	C 1	単	The Traditional Knowledge Based ESD and Forest Education in a Bioregion: A case of the bio-cultural diversity ESD program in RCE Chubu in Central Japan	International Conference on Forest Education, FAO, 22-24 June 2021 Online	2021年 6 月
	C 1	単	愛・地球博の市民参加とSDGs	イベント学会第24回研究大会小フォーラ ム「万博の市民参加再考～愛・地球博の 市民参加のレガシーとは～」, 大阪府立 大学, 2021年11月7日	2021年11月
	C 1	単	東海・中部地域で進める「SDGsまちづくり」 のための人づくり	土地環境学会2021年公開シンポジウム パネルディスカッション「中部圏域にお けるSDGsの達成に向けて～持続可能なま ちづくりと土地利用～」, 中部大学, 2021年11月27日	2021年11月
	C 1	共	ローカルSDGsのためのESDの社会実装～議論 と実践の現場から	原理史, 古澤礼太, 水上聡子, 堺 勇人, 第2回環境教育学会中部支部大会, 環境 教育学会中部支部（主催）, 2021年12月 19日, オンライン	2021年12月
	C 1	単	「流域圏を対象とした生物文化多様性に関す るESD活動－伊勢・三河湾流域圏の事例－」	日本ESD学会 第4回大会研究発表要旨集, p15	2022年 2 月
	C 2	単	中部ESD拠点（RCE Chubu）の取組～東海3県 のSDGs人材育成～	（パネリスト）中部圏 SDGs 広域プラッ トフォームオープンセミナー, 2021年6 月30日, 名古屋国際センタービル	2021年 6 月
	C 2	単	SDGsで考える林業～持続可能な社会づくりと は～	加子母森林組合安全大会, 加子母森林組 合, 2021年7月21日	2021年 7 月
	C 2	単	ローカルSDGsの担い手を育成する－SDGs社 会教育実践の現場から－	「SDGs社会教育～学び合いの場&実践セ ミナー（2）」, 環境省中部環境パートナ シップCLUB&中部ESD活動支援センター 主催, 2021年9月16日	2021年 9 月
	C 2	単	伊勢・三河湾流域圏で進める SDGs達成のた めのESD ～中部ESD拠点（RCE Chubu）の事 例～	EPO中部・中部地方ESD活動支援センター ESD/SDGs推進のための交流機会提供 SDGs社会教育研究ワーキング第2回, ホ テルクラウンヒルズ高岡, 2021年9月30 日	2021年 9 月
	C 2	単	持続可能な一之宮のまちづくりに向けて	一之宮町まちづくり協議会「SDG s 講演 会」, 高山市一之宮公民館, 2021年10月3 1日	2021年10月
	C 2	単	SDGs教育（人材育成）の今後を考える ～産 官学民の学びから～	（基調講演）「SDGs Festival in 名古屋 丸の内：SDGsセミナー&パネルディスカッ ション」, 東京海上日動火災保険株式会 社（主催）, 2021年12月14日, 名古屋東 京海上ビルディング2階ABホール	2021年12月
	C 2	単	SDGs講座 ～環境問題へのアプローチ～	2021年度春日井市自然環境活動保全推進 員ステップアップ講座, 春日井市, 春日 井市市民活動支援センター（ささえ愛セ ンター）, 2021年12月9日	2021年12月

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
古澤 礼太	C 2	単	祭りの多面的機能とSDGs（持続可能な開発目 標）	あいち山車まつり日本一協議会主催「あ いち山車文化魅力発見講座」, 2021年12 月19日, ウィンク愛知	2021年12月
	C 2	単	SDGsで広げ, つながる, 市民の学びと実践	「生涯学習・市民活動人材育成講座」, 一 般財団法人こまき市民文化財団, 小牧市, 小牧市教育委員会（主催）, 2022年2月12 日	2022年 2 月
	C 2	単	SDGsを知る ～なぜイベントにSDGs視点が必 要か?～	日本イベント業務管理士協会・『第4回 オンラインセミナー』, 2022年2月17日, オンライン	2022年 2 月
	C 2	単	「自然の叡智」とSDGs	シンポジウム「地球大交流フォーラム 2022」, 愛・地球博記念特別展示会2022 附帯事業「EXPO 地球市民の集い」, 一 般財団法人地球産業文化研究所, 地球市 民交流センター, 2022年3月26日	2022年 3 月
	C 2	共	『持続可能な地域を創るポリシー・メーカー の育成 中部サステナ政策塾の取り組み Vol. 6』	古澤礼太, 川村真也（編集）, 2022年3月, 中部ESD拠点協議会発行	2022年 3 月
	D	単	審査委員	SDGs推進フェア企画事業委託業務企画提 案書審査会, 愛知県環境局, 2021年5月 21日, 愛知県庁	2021年 5 月
	D	単	メディア出演	インターネットTV大塚耕平の「三耕探究」 #054: 2021年 6 月18日配信	2021年 6 月
	D	共	『中部大学ESD通信』（Vol136-39）	（編集）, 『中部大学ESD通信』, Vol136: 2021年7月, Vol138:2021年11月, Vol. 39: 2022年3月, 中部大学国際ESD・SDGsセン ター発行	2021年 7 月
	D	単	SDGs未来都市高山を創る	令和3年度第1回SDGs職員研修会, 高山市 役所, 2021年7月1-2日（3回開催）	2021年 7 月
	D	単	SDGsで飛騨高山の未来を創ろう～高校生と SDGs～	高山市斐太高等学校 招待講義, 2021年 7月12日, オンライン	2021年 7 月
	D	単	メディア出演	CBCテレビ65周年記念特別番組「千原ジュ ニアのたったモン勝ち～GOMIときどき笑 い～」(SDGs解説者), CBCテレビ, 2021 年11月6日放送	2021年11月
	D	単	企画・講評	令和3年度第3回SDGs職員研修会, 高山市 役所, 2021年11月8-9日（2回開催）	2021年11月
	D	単	分科会コーディネーター	Meijo Global Festa, 名城大学附属高等 学校, オンライン, 2021年11月15-22日	2021年11月
	D	単	SDGs（持続可能な開発目標）を知ろう！	日進市大学連携講座（中部大学連携講座）, 日進市教育委員会生涯学習課, 日進市民 会館, 2022年1月13日, 20日, 27日（全3 回）	2022年 1 月
	D	単	中部ESD拠点（RCE Chubu）の活動	（報告）, RCE国内会議（RCE大牟田, 国連 大学）, 2022年2月15日, オンライン	2022年 2 月
	D	単	委員	『清流の国ぎふ』SDGs推進ネットワーク」 リーディング会員認定評価会議（岐阜県）	2021年度
	D	単	コーディネーター	ESDコンソーシアム愛知	2021年度
	D	単	常任運営委員	SDGsクエスト甲子園東海地域実行委員会	2021年度
	D	単	委員	愛知学長懇話会SDGs企画委員会	2021年度
	D	単	理事, 中部地域副本部長	イベント学会	2021年度
	D	単	事務局長	中部ESD拠点協議会（国連大学認定RCE）	2021年度
	D	単	理事長	特定非営利活動法人愛・地球プラットフォー ム	2021年度

氏 名	区分	共・単 著の別	著書・学術論文・研究発表・作品等・諸活動 の名称	発行所・雑誌（巻、号、頁）等又は学会 等の開催場所	発表年月
古澤 礼太 安本 晋也	D	単	委員	令和3年度持続可能な未来のあいちの担 い手育成事業委託企画提案審査会（愛知 県環境局）	2021年度
	D	単	副委員長	愛知県教育委員会 ユネスコスクール支 援会議	2021年度
	B 1	共	オープンスペースへの認知的近接性が健康格 差に与える影響－大阪府の事例－	人文地理, 73巻, 4号, p. 445-465	2022年 1 月
	B 2	共	太陽光発電施設の立地特性と紛争発生要因に 関する研究	「問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点」令和3年度 成果報告, pp12	2022年 3 月
	B 2	共	AST-GCNモデル・ビッグデータを用いた新型 コロナウィルス感染症流行予測	「問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点」令和3年度 成果報告, pp13	2022年 3 月
	B 2	単	近隣環境の質による健康格差の影響	東海地理, 59号, p972-974	2022年 3 月
	C 1	共	AST-GCNモデル・ビッグデータを用いた新型 コロナウィルス感染症流行予測	「問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点」令和3年度 成果報告会	2022年 3 月
	C 1	共	太陽光発電施設の立地特性と紛争発生要因に 関する研究	「問題複合体を対象とするデジタルア ース共同利用・共同研究拠点」令和3年度 成果報告会	2022年 3 月
	D	単	中部大学 中部高等学術研究所 令和2年度 年報 監修・作成	中部大学 中部高等学術研究所	2022年 1 月

3. 令和3年度に開催された研究会・シンポジウム等

令和3年度、中部高等学術研究所主催の研究会として「人文学の再構築」研究会が開催された。概要は以下の通りである。

「人文学の再構築」研究会

1) 研究会概要

中世末期に大学を中心として人文学が成立した時点では、科学と技術との連携は無かった。科学は人文学に抱合されていたからである。また、技術は学問の枠外にあり、学問と技術は、お互いを無視する、あるいは蔑視しあうという関係にあった。ところが、16世紀、17世紀のいわゆる科学革命の中で、人文学から科学が自立し、科学と技術の連携も進んだ。こうした過程を進めたのは、大学というよりも、新しく成立してくる近代国家が設立したアカデミーであった。このことから、新しい形の学問の近代的な枠組みが定着するのは、フランス革命期の学問改革あるいはアカデミーの再編からだったのではないかと考えられる。その後、19世紀に科学と技術の結合がさらに進むと、一方で、科学技術が発展するが、他方で理系と文系の乖離が問題となった。特に世界大戦後には文系の側にも科学的な手法が入り、人文学自体が変質すると同時に多くの分野の影が薄くなってしまった。このため、今日「学問の社会史」というものを考える場合に、「科学の社会史」と同義語になってしまうような状況が生まれた。

本研究会を立ち上げるに際しては、人文学から科学が独立・自立する歴史的な過程をたどることで科学に対して人文学的な価値評価をすれば、理系と文系とのより強い緊張関係が作り出され、学問の将来を展望できるのではないかと考えた。科学の社会史を問い直すことによって、人文学的な価値意識によって科学の将来を論じることが可能ではないかというのが、この共同研究の趣旨である。本研究会では、学問の現状と課題について、歴史的、特に近代史的視点に立って反省的考察を加えることを試みる。検証結果は中部大学の研究と教育に生かすとともに、広く外部に問題提起を発信することを目指している。

2) 世話人

安藤 隆穂 教授 全学共通教育部 全学総合教育科

玉田 敦子 准教授 人文学部 共通教育科

3) 開催実績

- ・令和3年度は3回開催

◎ 「人文学の再構築」第10回研究会

日 時：2021年7月10日（土）14時00分～16時30分

場 所：新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomでの開催

演題 「社会科学と人文学の課題展望—環境経済学からの提言」

演者 宮本 憲一（大阪市立大学・滋賀大学名誉教授）

◎ 「人文学の再構築」第11回研究会

日 時：2022年1月24日（月）15時30分～18時00分

場 所：新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomでの開催

演題 「"理解社会学"という挑戦—世紀転換期の社会科学の迷走から考える」

演者 中野 敏男（東京外国語大学名誉教授）

◎ 「人文学の再構築」第12回研究会

日 時：2022年2月12日（土）14時00分～16時30分

場 所：新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomでの開催

演題 「スピリチュアリティ・家族・『母性』」

演者 中野 敏男（東京外国語大学名誉教授）

4. 国際 ESD センター

4. 1. 国際 ESD センター主催・共催事業

(1) 第 12 回中部大学 ESD・SDGs 研究活動発表会

日時：2021 年 10 月 13 日（水）15:20~18:20

場所：Zoom によるオンライン開催

開会の挨拶：国際 ESD・SDGs センター長 山羽 基

第 12 回中部大学 ESD・SDGs 研究・活動発表会の開催にあたって：
中部大学学長 竹内 芳美

第 1 セッション司会：川村 真也（国際 ESD・SDGs センター研究員）

持続可能な開発のための教育でつくる子どもの未来～あつまれ！わんぱく隊 eco チャレンジ班の活動報告～

佐々綾香、酒本エリカ、片山瑛斗
（中部大学 現代教育学部 あつまれ！わんぱく隊 eco チャレンジ班）

コロナ禍における大学生の喫煙に対する認識や態度～持続可能な健康的でスモークフリーキャンパスを目指して～

青池慎人（中部大学大学院 生命健康科学研究科）

オンラインで SDGs ゼミ交流 with シンガポール国立大学
澤井マリナ（中部大学 国際関係学部）

未就学児用 SDGs 絵本づくり：SDGs 達成が当たり前の社会をめざして
跡見美祐、荒川杏菜、堀田萌（中部大学 人文学部）

市民参加型プロジェクトから見える SDGs 達成への糸口-GIS アプリを用いた事例-
門郁美、及川環奈（酪農学園大学 農食環境学群）

コロナ禍で工夫した産学連携活動 千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト
早川咲紀、戸井田 俊介（千葉大学 環境 ISO 学生委員会）

第 2 セッション司会：影浦順子（経営情報学部助教 / 国際 ESD・SDGs センター）

救護ボランティア活動を通して感じたこと・考えたこと
鈴木豪斗、牧沢 祥一、奥村 優加里（中部大学 生命健康科学部）

「エシカル消費」を考える

山田敬太、小玉恭輔、末永嵩洋、高山瑛貴、村尾洸季
（中部大学 国際関係学部）

誘導モータの高効率化に関する研究
閻嘯男（中部大学大学院 工学研究科）

事業マネジメントシステムの標準化教育 会社を守ろう with コロナ

日渡柊太、藤澤朋輪、數井日向、北山侍穂

(中部大学 ESD エコマネーチーム 中部大学 経営情報学部)

岐阜大学環境サークル G-amet の取り組み ～教職員や地域社会との共創による学生主体の環境活動のロールモデルを目指して～

中籾 駿 (岐阜大学 環境サークル G-amet)

途上国の女子のキャリア形成に向けた布ナプキンと月経教育の普及

山田莉央、牧弥佑、林優香里 (名城大学付属高等学校 キャリア JK ズ)

討論 (質疑応答) 進行: 古澤 礼太 (国際 ESD・SDGs センター研究員准教授)

総括・閉会の挨拶: 伊藤 佳世 (経営情報学部准教授/国際 ESD・SDGs センター運営委員)

(2) 第 26 回 中部大学 ESD・SDGs シンポジウム

○ 第 26 回 中部大学 ESD・SDGs シンポジウム (学内シンポジウム)

中部大学の SDGs 評価 THE (Times Higher Education) インパクトランキングの評価を受けて

日時: 2021 年 6 月 2 日 (水) 15:20~16:50

場所: Zoom によるオンライン開催

開会挨拶

飯吉 厚夫 (中部大学 総長・理事長)

基調報告

山羽 基 (中部大学 工学部 教授、国際 ESD・SDGs センター長)

個別報告

古澤 礼太 (中部大学 国際 ESD・SDGs センター 准教授)

安本 晋也 (中部大学 国際 GIS センター 講師)

川村 真也 (中部大学 国際 ESD・SDGs センター 研究員)

全体討論

4. 2. 国際 ESD センター地域連携事業

(1) 中部 ESD 拠点協議会主催事業

中部サステナ政策塾

- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 1 回講座 テーマ: SDGs の構造と SDGs プロジェクトの意義 講師: 竹内 恒夫、石田 芳弘、森 良 6 月 26 日 (土)
- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 2 回講座 テーマ: SDGs プロジェクトの立ち上げ 講師: 森 良 7 月 12 日 (月)
- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 3 回講座 テーマ: 地域における SDGs 推進 講師: 神田 浩史 8 月 19 日 (木)
- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 4 回講座 テーマ: SDGs プロジェクト・ワークショップ (課題抽出のためのワークショップ) 9 月 17 日 (金)
- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 5 回講座 プロジェクト中間発表 (報告会) 10 月 23 日 (土)

- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 6 回講座 テーマ：豊川流域の地域課題を探る 豊川フィールドワーク 11 月 13 日（土）～14 日（日）
- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 7 回講座 テーマ：ローカル SDGs ネットワークの発展（まちづくりと SDGs） 講師：若山 滋、藤井 英明 11 月 17 日（水）
- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 8 回講座 テーマ：SDGs プロジェクトの可視化と連携 講演「SDGs for What？」 講師：野中 ともよ 12 月 21 日（火）
- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 9 回講座 テーマ：SDGs プロジェクトの相互評価（ワークショップ） 1 月 14 日（金）
- 中部サステナ政策塾 2021 度 第 10 回 活動成果発表会・交流会 中部 ESD 拠点「SDGs フォーラム 2022」2020 年 2 月 11 日（金）10:00～17:00

【第 1 部】活動発表セッション（「第 1 回 伊勢・三河湾流域圏 SDGs 生物文化多様性フォーラム」同時開催）

開会のあいさつ 遠藤 和重（国際連合地域開発センター所長）

趣旨説明 古澤 礼太（中部 ESD 拠点 事務局長）

SDGs 地域課題・活動発表セッション（SDGs に関する事例発表）

【第 2 部】講演セッション

挨拶 飯吉厚夫（中部 ESD 拠点 代表、中部大学 理事長・総長）

特別講演「SDGs 時代の異文化理解とパートナーシップ ～ニューノーマルと持続可能な社会～」講師：ウスビ・サコ（京都精華大学学長）

コメント松浦晃一郎（第 8 代ユネスコ事務局長、中部サステナ政策塾 特別顧問、中部大学学事顧問）

【第 3 部】討論セッション

グループ討論 テーマ「SDGs 後半戦の戦略」

全体討論

開会のあいさつ 竹内 恒夫（中部 ESD 拠点運営委員長、名古屋大学大学院 特任教授）

（2）愛知学長懇話会サステナビリティ・プロジェクトの実施支援

- 2021 年度 第 1 回愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会の開催（オンライン開催）2021 年 6 月 3 日（木）
- 2021 年度 第 2 回愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会の開催（オンライン開催）2021 年 10 月 1 日（金）
- かがやけ☆あいちサステイナ研究所成果発表会 2021【愛知学長懇話会 SDGs リレーシンポジウム（第 11 回）】の開催 会場：愛知大学 12 月 12 日（日）
- あいちサイエンスフェスティバル 2020 サイエンストークへの講師派遣（オンライン開催）
 - ①9 月 27 日（月）19:00～20:00 「2050 年ゼロ・カーボンで我々の暮らしはどう変わるのか」山羽 基（中部大学工学部 教授）
 - ②10 月 4 日（月）19:00～20:00 「持続可能な社会の担い手の育成を目指して」大鹿 聖公（愛知教育大学 教授）
 - ③10 月 23 日（金）19:00～20:00 「都市について、さまざまな側面から考えてみよう」神崎 宣次（南山大学国際教養学部 教授）
- 愛知学長懇話会 SDGs リレーシンポジウム（第 12 回）の開催 会場：オンライン（愛知教育大学で実施） 2022 年 1 月 7 日（金）

5. 国際 GIS センター

5. 1. 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

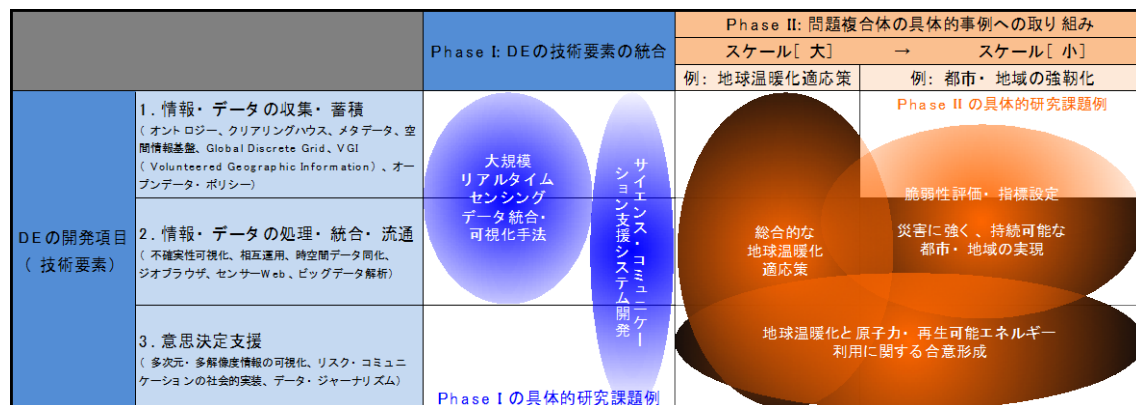
現在人類は、自然災害のリスクから科学技術に伴うリスクに加え、地域・民族紛争ばかりか最近では地球温暖化といったリスクなど、様々なリスクを抱えています。これらのリスクは、相互に関連するとともに、ある局所的に突発した些細な事象が、急速に全球レベル波及し、人類の持続性の脅威にもなりかねません。

このような複合的かつ早急に対処を要するリスクに対応するためには、問題の把握と対応を実時間（リアルタイム）に行い、諸科学を横断して因果分析やプロセス分析を総合的に融合するといった、新しい問題対応手法が必要です。そこで中部大学では、その手法は、近年、成熟した技術となりつつある、GIS、空間情報科学（Geoinformatics）によるアプローチが有効であると考え、複数の研究者がコラボレーションをするための組織を創り、新しい問題対応手法の開発を研究しています。

5. 1. 問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

拠点の目的：

情報科学、リモートセンシング、GIS、社会工学等に関する研究者との共同利用・共同研究を通じて、サイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球（デジタルアース）の研究開発を行う。さらに環境、災害等の問題複合体の研究者に対し、デジタルアースを提供し、共同利用・共同研究により持続可能な社会を構築するため、問題複合体を解題し、合意形成に寄与するとともに関連諸科学の発展に貢献する。



令和3年度採択共同研究：

カテゴリ1：デジタルアースの技術要素の統合

1-1：リアルタイム・センシングデータ統合手法

研究課題番号：IDEAS202101

研究課題名：大規模衛星データの農業利用を目的としたスケーラブルなAPI、及びアプリケーションの開発

研究代表者：西内俊策（名古屋大学）

研究概要：農業現場での衛星データの利用と普及に先立ち、スケーラブルなアプリケーションに利用可能なデータAPIを設計・実装し、その上にアプリケーションを開発する。そして、牧草の季節変化を追跡する研究を遂行するケースにおいて、アプリケーション開発工程、処理に掛かる時間といった定量的な評価軸を用い、開発アプリケーションが大規模衛星データの農業分野における利用に貢献するかどうか検証を行うことを目的とする。

研究課題番号：IDEAS202102

研究課題名：センシングデータ/GISデータ/統計データを統合した移動販売のた

めの AI 解析

研究代表者 : 長井正彦 (山口大学)

研究概要 : 本研究では、デジタルアースの技術要素の統合を目的とし、GIS データ、衛星データ、モバイルセンシングデータを融合し、過疎地域における移動販売の効率化を対象として研究を進める。高齢者人口や店舗情報等の GIS データ、周辺環境やその変化を観測する衛星データ、移動販売車の GPS 移動情報や気象データ等のモバイルセンシングデータ、さらに移動販売による販売データ等の統計データを統合し、販売箇所、販売商品、季節的な購買変化に対する AI 解析・予測へのデータパイプラインを検討する。特に、環境・災害監視や農業分野で用いられている標準データモデルやデータ API (OGC の WCS、WMS、SOS (Sensor Observation Service) 等) を効果的に利用し、これらの有効利用による買い物難民支援と移動販売の効率化支援といった新たなアプリケーションの開発を行う。

1-2 : 基盤データ構築および分析・不確実性可視化手法

研究課題番号 : IDEAS202103

研究課題名 : Airbnb データを用いたローカルな民泊需給のダイナミック価格形成要因の分析

研究代表者 : 仙石裕明 (東京大学)

研究概要 : 本研究ではこうしたデータを活用した価格・稼働率構造を明らかにすることで、民泊という業態の抱えるボトルネックの解消に貢献することを目的とする。民泊の抱えるリスクの定量化や、不動産の民泊転用評価を可能とすることで、日本が全国的に抱える空き家を新しい地域経済をつくる資源として再活用する一助としたい。

1-3 : サイエンス・コミュニケーション・システム開発

研究課題番号 : IDEAS202104

研究課題名 : 東日本大震災及び福島第一原発に関する「風評被害」の報道内容と地理空間上の分布に関する通時的な研究

研究代表者 : 酒井信 (明治大学)

研究概要 : 本研究はサイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球 (デジタルアース) の研究開発において、主として社会科学に関わる問題を表象する情報・データの収集・蓄積を行い、デジタルアース上において地理空間上の分布を、俯瞰的に分析することを目的とする。特に 2011 年 3 月から 2021 年の東日本大震災及び福島第一原発に関する「風評被害」に関する報道について、報道量・報道内容の分析を行

い、記事内で言及されている地名について3階層（都道府県、市町村、町名）に区分したメタデータを抽出し、デジタルアース上に配置することで報道分布の分析を行う。本研究では、このような新聞の報道量（報道数、文字数）と地理空間上の報道分布を分析することで、被災情報の伝達過程で生じる情報格差について可視化し、その格差が生じる要因について現実の被災状況と比較しながら、災害時の情報公開のあり方について考察することを目的とする。

研究課題番号：IDEAS202105

研究課題名：市民対話からの環境ガバナンスへ：福島で探る

研究代表者：中村秀規（富山県立大学）

研究概要：過去5年間にわたり、継続して、「東日本大震災を体験または経験した主権者である市民が、環境エネルギー政策に関し、市民どうしで、また専門家と対話する方法」を、市民参加型・場づくり型事例研究によって追究してきた。その結果、提案した対話手法は、対話への態度をより肯定的にし、また自己内対話(熟慮)を促進することが示唆された。さらに実証的に検討を進めるため、高レベル放射性廃棄物処分問題を対象に、今年度は核被害が生じた原子力発電所立地自治体（今回初）において、無作為抽出された市民に対して案内を行い、異なる立場を有する専門家の参画を得て、論理と感情・価値観の双方に配慮した市民対話を実施する。

研究課題番号：IDEAS202106

研究課題名：蝶斑紋地域変異の定量的考察

研究代表者：矢後勝也（東京大学）

研究概要：中部大学へ移管中の「日本産蝶類藤岡知夫コレクション」は、日本産全種及び関連する近隣諸国標本の約22万頭を有する世界有数の貴重なコレクションであり、これを有効利用するために「データベース整備」、「ヴァーチャルミュージアム(WEBでの公開)」の作成が始まっている。一昨年度から、このデータベースをGBIF（地球規模生物多様性情報機構）に準拠した形式で、昆虫の採集記録情報の再編をおこない、上記のコレクションのデータを国際的に利用可能な自然史標本データとしての改訂作業を実施している。今年度は特にギフチョウに関して、今年中の公開を目指し、データベースを作成する。さらに、昆虫のような小型のオブジェクトは全体像を把握することはできても、細部の構造を肉眼で観察するのは難しいため、インタラクティブな操作で大画面での表示・観察を可能にするために開発したツール（拡大観察図鑑）と組み合わせる。それにより、研究者が顕微鏡を用いて観察する世界を多くの

人々が体験できるようになるサイエンス・コミュニケーション支援システムを開発し公開する。本支援システムを GIS データベースの情報と共にデジタルアース上で統合・可視化することにより、地球規模で蝶の斑紋などの研究が可能になる。さらに、本研究では、上述した「日本産蝶類藤岡知夫コレクション」を基盤とした「サイエンス・コミュニケーション支援システム」と植生や植物相等の GIS 関連データをデジタルアース上で統合することにより、生物と植物相（生息環境）の地域変容を明らかにできると考えられる。上述したコレクションのデータは膨大なため、時間の制約上、今年度は東海三県（岐阜県、愛知県、三重県）を対象とし、ギフチョウとその幼虫の食草であるウマノスズクサ科カンアオイ類の分布に着目し、その空間相関分布の検討をおこなう。昆虫の棲息地域は、環境条件の要素が大きく影響しており、地球温暖化・人工的環境破壊状況や人間の都市開発等の様々な環境変化に影響を受けている。デジタルアース上で地球温暖化・人工的環境破壊状況などの GIS 情報と生物棲息地情報の連携を可能とすることにより、上記のような問題複合体を解決するための様々な異なる意見間における議論根拠としてのデータの提供が可能となる。

研究課題番号：IDEAS202107

研究課題名：SDGs and the research-education-outreach interface: A study of human security, data science and online engagement in the Japanese contexts

研究代表者：Tong Vincent (Northumbria University)

研究概要：The overall goal of our study is to investigate the significance of the relationship between research, education and outreach in advancing SDGs, with a particular focus on the Japanese higher education institutions and academics based in Japan. Building on our findings from the funded project in 2018-20, we will focus on addressing the following themes, which are closely aligned with the core concepts in Digital Earth: Human Security (for studying the natural sciences-social sciences interface) / Data science (for studying the research-education interface) / Academics and institutions as key opinion leaders (for studying the human-institution interface). The three themes are inter-related and will allow us to address the following research question: How do academics and academic institutions in Japan engage with each other and with the general public for studying and improving human security – through data science in research and education?

1-4：ビッグデータ解析

研究課題番号：IDEAS202108

研究課題名：深層学習・ビッグデータを用いた人獣共通感染症パンデミックの要因
解明および時空間分布予測

研究代表者：安納住子（上智大学）

研究概要：本研究では、台湾において流行しているデング熱を対象に、深層学習、気候変動・環境変化を観測するリモートセンシングデータ、モノのインターネット(以下 IoT)により収集されるデング熱サーベイランスデータを応用し、デング熱流行要因の解題と、異なるアルゴリズムを用い予測モデルの精度比較検証を行うことにより、デング熱発生の時空間分布を予測し、流行防止に直結するモデルの確立を目指す。また、本研究では、深層学習、社会要因・自然環境要因・政治要因・経済要因・技術要因に関するオープンデータ、ビッグデータ、ゲノム情報を応用し、COVID-19 感染源の特定、ウイルス拡散に寄与している要因の解明、感染経路および伝播様式の解明、発生の時空間分布を予測し、流行防止に直結するモデルの確立を目指す。

研究課題番号：IDEAS202109

研究課題名：ドローンにより収集した熱赤外面像と可視画像を用いた広域を対象とした空き家分布推定手法の開発

研究代表者：秋山祐樹（東京都市大学）

研究概要：本研究では、広域を対象とした空き家分布推定手法の開発を目的とする。具体的にはドローンに搭載した熱赤外カメラを用いて、対象となる建物の熱分布と可視画像を複数回撮影することで、建物単位で居住者の生活に由来する熱や夜間光の発生を把握し空き家か否かの判定を行う。また、自治体より収集した広域を対象とした空き家分布調査結果との突合により、本研究で開発する手法の信頼性検証を実施し、本手法の利点や限界を明らかにする。

研究課題番号：IDEAS202152

研究課題名：ビッグデータ解析による特定テーマ（例：貯水池）に関わる学術論文のデジタルアースへの統合

研究代表者：小田真人（神戸情報大学院大学）

研究概要：人口増加による灌漑用水需要と気候変動により、淡水資源の枯渇に対する対策が急務になっている。そこで、本研究では「貯水池」をキーにし、貯水池に関わる枯渇、汚染、生物資源、土木開発、利水、治水、紛争、文化、歴史など全方位の

論文を対象に、デジタルアース上にマッピングする。一つの貯水池に対し、紐づく学術論文を表示できれば、個別の「貯水池」に関わる課題のみならず、そのエリア全体の貯水池の課題の把握や、似通った気象条件・地理条件の別の貯水池の論文を参照することも容易になる。

カテゴリ 2：問題複合体の具体的事例への取り組み

2-1：防災・減災情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202110

研究課題名：デジタルアースを利用した避難情報伝達支援システム

研究代表者：牧野秀夫（新潟大学）

研究概要：災害発生時における救急隊員や視覚障がい者等情報弱者の避難誘導を目的に、新しい屋内外測位技術を利用した避難情報伝達支援システムの研究を行う。ここでは、従来研究開発を進めてきた「災害派遣医療チーム（DMAT）支援用 GIS システム」をもとに、被災現場における個人の屋内外位置情報の把握と GIS による情報提供を可能とする。特に、正確に個人単位で現在位置を把握するための新技術として「2 アンテナ式携帯型 GPS」及び「非可視型 QR コードによる測位」を実現し、それらの情報を地図上に表示する。さらに、Web データ自動検索による大雨時の降雨量や火災発生状況といった時間的に変化する環境データを GIS 上で統合し、大型画面上で共有する。ここで、非可視型 QR コードは、路上の掲示板などに肉眼では見えない形の QR コードを隠しこむ技術である。これらの基礎研究成果をもとに、災害現場に関連する種々の情報をデジタルアース上で統合する。

研究課題番号：IDEAS202111

研究課題名：地震災害予測のための地球観測データのデジタルアースへの適用 -複合解析情報可視化の高度化と軽量化-

研究代表者：長尾年恭（東海大学）

研究概要：本研究では、活断層の応力状態を推定する方法として、直近の b 値および p 値などの地震活動から求められるパラメータの変動や GNSS 観測点データから計算した地殻変動データの解析を行う。地震データは主として気象庁一元カタログの物を使用するが、震源データの確定まで 24 時間以上のタイムラグがあるので、準リアルタイム性を考慮し防災科研の Hi-net による速報値データも使用する。

2-2：環境、エネルギー情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202112

研究課題名：複合的な自然環境便益の時空間評価に関する基礎的研究

研究代表者：林希一郎（名古屋大学）

研究概要：本研究では、UAV等を用いたデータ収集による経年データの収集とともに、愛知県、岐阜県等の航空機レーザー測量データの活用により、広域的なCO₂固定量推計手法の開発を行う。これまでに開発してきた森林空間体積を用いたバイオマス量・CO₂固定量推計モデルについて、愛知県や岐阜県内等でのデータ収集を更に進め、広域評価モデルへの拡張を試みる。このように生態系サービス評価モデルの広域化を進めることにより、デジタルアース（Japan）評価の一部を作成することを目的とする。

研究課題番号：IDEAS202113

研究課題名：市民の健康・環境コミュニケーションに資する熱環境に着目した公共空間のIoT化

研究代表者：安室喜弘（関西大学）

研究概要：本研究では、（1）ウェブアプリケーションによる健康増進型公園におけるWBGTの空間的な可視化のフレームワークの構築、ならびに、（2）人流データを用いた熱ストレス分析ツールの開発、また、（3）これらのツールを活用して吹田市域の日陰マップを対話的に利用する機能の構築を目指す。本研究により、市民と行政の健康・環境コミュニケーションツールの在り方について実践的な知見が得られ、その援用による健康、環境情報をデジタルアースに投入することで、気候変動への適応を中心に複合的な問題解決に資する。

2-3：その他持続的発展に関する情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202114

研究課題名：ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラムのESD活用研究

研究代表者：伊藤恭彦（名古屋市立大学）

研究概要：本研究では中部高等学術研究所の持つ自治体のSDGs指標やデジタルアース環境情報を用いた「見える化」した地域状況（地域SDGs状況評価データセット）に基づく議論プログラムを作成するとともに、中部地方ESD活動支援センターネットワークの行政の担当者や時代を担うユースの参加により議論の場を設営実証し、ESDフレームとしても用いることができる、実務に応用することを見据えた施策形成

議論に資する実装可能な地域課題検討プログラムを構築する。

研究課題番号：IDEAS202115

研究課題名：流域圏 SDGs 評価モデルの構築に関する研究 -三重県の流域圏を事例として-

研究代表者：水木千春（三重大学）

研究概要：本研究では、三重県内の 6 つの河川の流域圏を研究対象地域とし、まず、1) 各流域における地域課題を明らかにし、2) それらの地域課題に対応する SDGs ターゲットの中で指標についての検討をする。その上で、3) 基準設定の概念が不明確な指標について、地域特性に応じた基準設定をすることで、グローバル指標に基づいた地域課題を捉えるためのローカル指標を作成する。4) 作成した指標を用いて、地域の SDGs 達成度を地理情報として可視化、及び評価が可能な GIS データベースを構築し、最後に、5) 上述したデータベースを援用し、地域の SDGs 活動の達成度等を評価し、地域のステークホルダーの活動へフィードバック可能な仕組みを構築する。以上により、流域圏単位での SDGs 活動を評価するモデルを構築することを目的とする。

研究課題番号：IDEAS202116

研究課題名：都道府県内の人間の安全保障指標 (HSI) の開発と DE 技術の適用-SDGs の実践の効果的な計測のために

研究代表者：峯陽一（同志社大学）

研究概要：本研究では、これまでに完成した日本全国版の人間の安全保障指数 (HSI) を基盤に、ひとりひとりの住民に近い地方自治体を単位として、それぞれが直面している課題を可視化することができないだろうか、という問題意識のもと、東日本大震災を経験した宮城県内の 35 市町村を単位とする「宮城県の人間の安全保障指標」(宮城県 HSI) を作成する。現地の大部分の自治体を訪問し、さらに情報公開請求をするなどしてデータを集める。宮城県 HSI は、全国版の手法を踏襲しつつ、入手不可能な変数については代替変数を検討する等、データを集め解析、可視化をおこなう。

2-4：感染症対策に関する情報のデジタルアースへの投入と利用サービス

研究課題番号：IDEAS202151

研究課題名：感染症パンデミックの時空間ダイナミクス解析

研究代表者：佐々木真（九州大学）

研究概要：本研究では、最近深刻な問題となっている新型コロナウイルスをはじめとする感染症の時空間ダイナミクスを観測データから抽出することを目指す。新聞やインターネットのニュースでは、感染症の数理モデルを用いた予測等を目にする事があるが、多くは空間分布の発展を考えるモデルになっていないため、地域に応じた対策を考える事が困難な状況にある。感染者数の空間分布の発展を記述可能な数理モデルの構築が喫緊の課題となっている。そこで、本研究では新型コロナウイルス感染者数の空間発展を記述可能な数理モデル構築を目指し、感染者数の空間分布の観測データ解析およびモンテカルロシミュレーションを実施する。そして、モデリングに必要な基礎データを抽出することを目指す。

一般研究

研究課題番号：IDEAS202131

研究課題名：ドローンを用いた大気流速場の局所計測

研究代表者：荒川弘之（島根大学）

研究概要：本研究では、現在普及が進んでいるマルチコプターに代表されるドローンに着目した。ドローンにはカメラの他、自律飛行のための気圧センサーや傾きセンサー等多くのセンサーを積載している場合が多い。本研究では、ドローン搭載のセンサー群から局所的な大気の流れを三次元的に求め、デジタルアース上に付加することを目指す。市販されているドローンの機能を用い、ドローンを持つ研究者や、それ以外の一般市民も計測に参加できるプラットフォームの基盤の構築を行う。以上により、地表面近傍の大気流れに関する問題のより効果的な対策を得ることを目指す。

5. 2. アジアサマースクール オンライン 2021

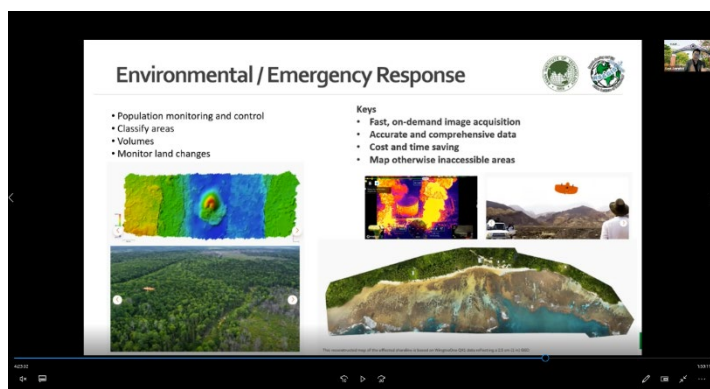
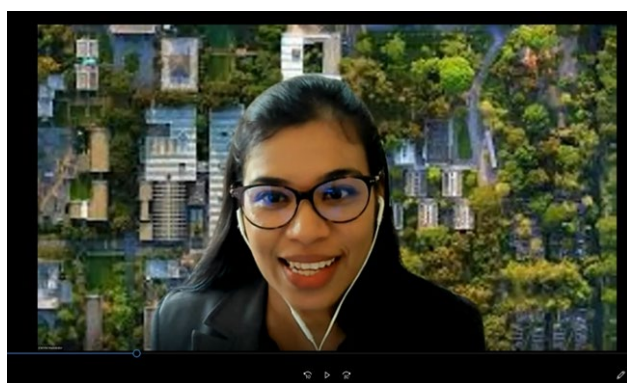
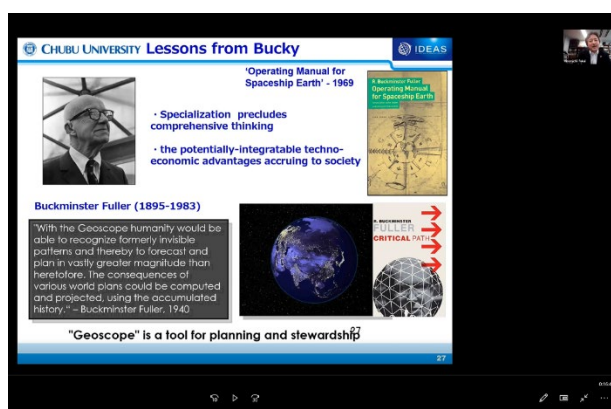
アジアサマースクールは参加者である中部大学学生がバンコクの AIT（アジア工科大学院）に訪れる形で、「地理情報科学と持続可能な発展」についての講義を行う中部高等学術研究所の国際的な研修プログラムであり、10 年以上の歴史がある。新型コロナウイルス感染症の流行によって、現在は AIT 現地での研修は難しい状況にあったため、本年度はオンラインを通じて従来のアジアサマースクールの授業内容（地理情報科学と持続可能な発展）についての講義を行った。

オンラインでアジアサマースクールを開講した目的として、これまでの現地を訪れてのサマースクールと同様に中部大学と AIT、およびその他のアジアの大学からの参加者に対し GIS 学習の重要性を啓蒙し、かつ来年度の参加者集めにも寄与することが挙げられる。

当日の聴講者の内訳は下記であった。

- ・中部大学生：5名（うち国際関係学部が3名、その他2名（所属が中部大学とのみ報告されていたため、学部が不明）、AITの学生：7名
- ・中部大学の教職員：5名
- ・その他の日本の大学・企業からの参加者：3名
- ・その他の国の学生：16名（うちネパールが12名、インドが3名、オーストラリアが1名）

以下にアジアサマースクールオンライン 2021 当日の写真（Zoom 画面からキャプチャーしたもの）を数点挙げる。



中部高等学術研究所 年報 令和 3 年度

令和 4 年 2 月 24 日 発行

編集・発行

中部大学 中部高等学術研究所

〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200

<http://www.isc.chubu.ac.jp/chukoken/about/info.html>

